

# 伊澤修二と台湾 (その1)

## 理想の教育実現の場として

### はじめに

2011年の東日本大震災、諸外国の中でいち早く被災地支援に動いたのが台湾でした。

台湾の卒業式で広く歌われる「青青校樹」は、伊澤修二が明治10年代に編集した『小学唱歌集』に掲載され、日本中で歌われた「仰げば尊し」です。また、戦前の日本統治時代を知っている台湾の高齢者の多くが日本語を話せることも驚きです。こういった台湾と日本の関係のルーツとも言えるのが実は伊澤修二なのです。

### 国家(国民)教育実現の夢

1895(明治28)年、日清戦争が終わって4月に下関条約が結ばれ、台湾が日本の領土になることが決まりました。伊澤は、初代台湾総督になる海軍大将樺山資紀(資料24)を訪ね、「台湾の統治は教育を最優先に行うべきだ」と述べたところ、「それをあなたがやりなさい」といわれ、台湾には自分が行こうと決心しました。

伊澤には、理想としていた「国民を育てる国家教育」を台湾で実現したいという夢があったのです。



資料24 樺山 資紀  
1837～1922  
国際日本文化研究センター  
日文研データベース

### 芝山巖で始めた台湾教育

6月、伊澤は船で台湾に渡りました。中国(清国)と結んで日本に敵対する勢力もいて、あちこちで戦いながら、台北に進みました。最初は、台北の大稻埕の民家を借りて学務部(教育を担当する行政機関)の仕事を始めましたが、台北の郊外、士林の街にある小高い丘、芝山巖(資料25、26)というところに荒れ果てた寺院があることを知り、ここに学務部を移すことにしました。伊澤は、地域の人々を集めて「私が台湾に来たのは、戦争をするためではなく、皆さんを日本の国民にするためです。」と話をしたところ、10代後半から20代前半の6名が集まりました。「学堂(学校のこと)」では日本人教師と台湾人の生徒が同じ部屋で生活をともにし、日本語教育だけでなく、礼儀作法なども含めた全人教育が行われました。生徒全員がすでに漢文の素養があったので、短期間の速習で日本語を身につけることができました。

### 共通の文字、漢字を生かして

伊澤は、台湾での教育を進めるために、欧米の植民地の様子を調べてみました。フランスは、インドシナでフランス語によるフランス風の教育を実施しましたが、住民の抵抗にあい失敗しました。台湾でキリスト教の伝道をしていたイギリス人宣教師パークレー(資料27)に会って話を聞きました。パークレーは、「台湾人は英語ができるようになるともうかる仕事ばかりしてしまうので、台湾語で教育すべき」と語りました。しかし、伊澤は、言葉は違うけれども、漢字という共通の文字を持つ利点を生かして、日本語を教えることができるのだという考えを強めました。

◇参考文献 台湾教育会『伊澤修二先生と台湾教育』(台湾教育会 1944年)  
上沼八郎『伊澤修二』(吉川弘文館 人物叢書 1962年)

年表 伊澤修二と台湾

年	月	できごと
1894(明治27)年	8	日清戦争が始まる
1895(明治28)年	4	下関条約が結ばれ、台湾が日本の領土になる
	5	大本営付陸軍省雇員となり、台湾総督府随員となる
	6	台湾に渡る 『台湾語会話篇』の編集に取りかかる 台北の大稻埕で学務部の仕事を始める 台北の郊外、芝山巖に学務部を移す
1896(明治29)年	10	樺山資紀総督に随行し台南視察 イギリス人宣教師トーマス・パークレーに面会 北白川宮の遺骸を幸い帰国
	1	芝山巖事件 6名の教師たちが殺害される
	2	芝山巖祭典
1896(明治29)年	3	台湾総督府直轄学校官制公布
	4	台湾総督府民政局学務部長
	5	再び台湾を訪れ、「国語伝習所規則」を定める
	7	総理大臣伊藤博文の書で「学務官僚遭難之碑」石碑を建てる
1897(明治30)年	9	台湾総督府国語学校規則公布
	5	台湾総督府の予算の削減に反対し水野民政長官と意見対立
1898(明治31)年	7	台湾総督府国語学校官制公布 学務部長を非職(休職)となり、翌月顧問となる
	6	学務部を解任される
1905(明治38)年	7	台湾公学校令公布 道徳や国語(日本語)教育を重視
	1	東京小石川で「遭難六士十年祭」をとりおこなう

上沼八郎『伊澤修二』(吉川弘文館 人物叢書 1962年)などをもとに作成



資料25 芝山巖学堂

『国家教育』第46号  
1896(明治29)年1月15日  
「在八芝林学務部学校  
此園は芝山巖上に登る所なり(洞天福地)は  
朱字を以て大なる岩に刻しあり…」



資料26 士林に入る伊澤修二

『国家教育』第50号  
1896(明治29)年5月15日  
「台湾八芝林ノ市人伊澤学務部長及其  
一行ヲ歓迎ス」



資料27

トーマス・パークレー  
1849～1935  
イギリス、グラスゴー出身の  
宣教師。